

8.

夏の那須連峰

茶臼岳・朝日岳・三本槍岳 縦走

夏の那須岳縦走 2001.7.15.

ロープウェイ那須岳登山口駅—茶臼岳—【那須岳後線縦走路 峠の茶屋・熊見曾根・清水平】—三本槍岳
 三本槍岳—【那須岳縦走路】—朝日岳—峠の茶屋—茶臼岳登山口—丸大温泉—那須湯本温泉・鷹の湯



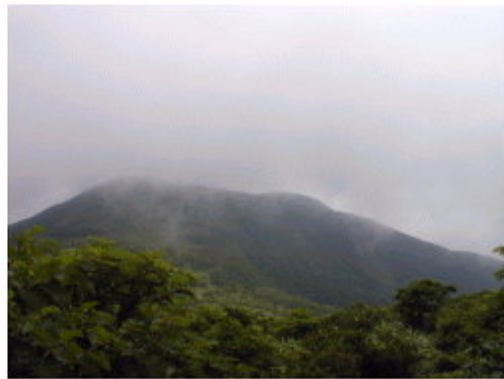
茶臼岳 峠の茶屋より



茶臼岳・朝日岳・三本槍ヶ岳 縦走路で



熊見曾根 から 朝日岳 縦走路で



三本槍ヶ岳

2001. 7. 15. nasu.htm by M.Nakanishi

1. 茶臼岳から峠の茶屋へ

梅雨の明けのを待ち兼ねて那須岳へ出かけました。

7月15日 晴れ。朝5時の電車で飛び乗って上野へ。三本槍岳まで行って 帰りはどこか温泉には行って・・・と欲張ってはいませんが、出たところ勝負。「日帰りはちょっときついかも・・・」とちょっと心配になって新幹線を使って那須塩原・黒磯へ。晴れてはいるものの那須の連山は雲の中。



霧の中 茶臼岳への登り

霧の茶臼岳頂上

茶臼岳の外輪山で



茶臼岳への登りで ウラジロタデの群落

ロープウェイ茶臼岳山上駅は霧の中。やっぱり風が強い。雨にでもなれば茶臼岳の頂上から峠の茶屋に下ってそのまま下山して温泉にはいてもいいしと気楽に登りはじめる。風につめたさはなく、夏の暑い照り返しを考えるとかえって楽。火山特有のザレ道を霧の中直登。霧であまりよく見えないが、白い岩くずの山肌のあちこちで、緑の葉の大きい「ウラジロタデ」の株が薄緑の花をつけている。

霧の中人影や草花が見えては消え見えては消えの幻想的な登りが続く。茶臼岳の頂上も薄い霧に包まれ人が影が陽炎のように見える。沢山の人がいるようですが、霧でよく見えず。ながいは無用で霧の中を火口壁の上を伝いながらロープウェイとは反対側の峠の茶屋へと下ってゆく。河口壁を登っている人達が霧の中影人形のように見える。人は随分少なくなった。ガレの中を下って中腹の山腹を回りこむあたりから、周りが見え出した。



噴煙をあげる 茶 臼 岳 頂上から峠の茶屋の下りで

頂上には相変わらず霧がかかっているものの茶臼岳の大きな山容が見え その山腹の爆裂火口からは幾く筋もの噴煙をあげ、やっとならぬ須岳のである。左に行く筋も噴煙をあげる無限地獄そして行く手には朝日岳・三歩本槍岳へと続く那須の稜線が霧の中に見え隠れしている。

茶臼岳の頂上から下ること1時間弱。大きな茶臼岳とその向こうに連なる朝日岳との深い鞍部にぽつりと赤い屋根蛾見える。峠の茶屋である。





茶臼岳と朝日岳の鞍部 峠の茶屋とその向こうの三本槍岳(左端)への稜線

夏的那須連峰 茶臼岳・朝日岳・三本槍岳 縦走

2. 峠の茶屋から主稜線を朝日岳・三本槍岳へ 2001. 7. 15.



茶臼岳と朝日岳の鞍部 峠の茶屋跡にある避難小屋

風と霧の名所で、また茶臼岳から朝日岳への稜線と黒磯表那須から会津川への峠道とがクロスする位置「峠の茶屋跡」である。今は避難小屋が建っている。

ここでは茶臼岳と朝日岳の山体にはさまれ、深く切れ込んだ鞍部でこの稜線の両側が深く切れ落ちている。右からは黒磯から茶臼岳の山腹をこの峠に至る道がまっすぐに続き、左にはこの峠から深く切れ落ちた谷の中へ下って裏那須・会津側の三斗小屋温泉への道が続いている。

この峠は古くからの交通の要衝であったという。

ひっそりと深い山の中にある三斗小屋温泉は静かなランプの山小屋として有名であり、一度は下って見たい道である。



那須連峰の稜線と表那須・黒磯から裏那須・奥会津への峠道がクロスする峠の茶屋付近

霧はあるものの薄いし、心配した風も大したこともなく、時間的にも十分余裕があるのでそのまま稜線を三本槍岳まで行くことにする。

峠の小屋からはいよいよ本格的な山の稜線歩きが始まる。

霧の中に荒々しい朝日岳の岩稜がみえかくれしている。朝日岳へ取り付くやせ尾根の鎖場が続くが風がないのが幸いである。

茶臼岳の白い岩肌から峠を境にして朝日岳側の岩肌は赤に一変。霧に濡れた岩肌が美しい。

厳しいやせ尾根の登りが続く。

30分ばかりやせ尾根の岩の中をよじ登ると一辺になだらかな稜線の上に出た。緑の灌木の中に埋もれてアップダウンの道を三本槍岳へ向かう。



峠の小屋からの稜線路上朝日岳

三本槍ヶ岳 稜線路上

【 峠の茶屋 朝日岳側の稜線路上から 】



霧の中に見え隠れする朝日岳とやせ尾根の道

雨上がりの緑が美しい。少しづつではあるが霧がはれ、正面に大きな山容の三本槍岳が頂上部を霧につつまれて見えてくる。ガレ場だらけの活火山で今も噴煙をあげる茶臼岳 そして剥き出しの岩肌を剥き出しにそびえる朝日岳とはまったくイメージの違う緑の樹木につつまれゆったりとした山容を示す三本槍岳が意外でした。



広い裾野には緑に埋もれて広い湿原が望める。この広い緑の湿原を横切って三本槍岳への登りとなる。振り返ると走り去る霧の中に噴煙をあげる茶臼岳が見える。峠の茶屋から約2時間で三本槍岳三本槍岳とその裾野に広がる清水平の頂上に立つことが出来た

3. 三本槍岳頂上と帰路の縦走路で



幸いにも霧が晴れうっすらと霞んでいるが周りの山々も見え、さわやかな風が吹きぬけ、そこにはトンボの大群が短い夏を楽しんでいる。

トンボは山越えをするとよく 言われるが、南の栃木県側から北の福島県側への山越えの 途中なのかもしれない。

もうはや山では秋への準備かも知れぬ。正面には今歩いて来た緑の稜線が連なり、その向こうに噴煙を

上げる茶臼岳そしてその右に沼原の貯水池が見える。

会社に入って初めての仕事がこの沼原揚水発電所向けペンストック用の HT80 の開発。日本の大型揚水発電所の第一号であった。

さらに右には谷をはさんで大峠・三倉山の大きな尾根筋が見える。そしてその背後に奥会津の山々が見えている。180 度回って北側にはこの那須連峰の北の端に位置する旭岳がその独特の尖塔を空に突き上げている。



トンボが群れ飛ぶ三本槍岳頂上から茶臼岳



那須連峰の北の端 朝日岳を望む

この三本槍周辺は太平洋と日本海の分水嶺になっており、北会津側は支流を集めて阿賀野川となって日本海へ注ぐ。また南側は太平洋へ注ぐ。

三本槍岳そのものはその名前ににず、ただ だだっ広い印象の薄い山ではあるが 三本槍岳を中心にどこまでも続く深い緑の森そしてその上に立つ変化にとんだ周りの山々。 その景観はやはり素晴らしい。



朝日岳のやせ尾根と茶臼岳

30 分ほどと頂上に居て霧の流れの中刻々と景色をかえる周りの眺望を楽しんで引き返す事にした。
幸い来る時は霧の中にあった清水平から朝日岳への稜線の道も晴れ渡り、変化にとんだ景色を楽しみながらの岐路である。



裏側からの朝日岳



那須連峰の稜線と雲の中の茶臼岳

晴れ渡った三本槍から朝日岳・茶臼岳への稜線

正面で噴煙をあげる茶臼岳へ向かって峰の茶屋跡まで下った。

そして 峰の茶屋跡から直角に折れて茶臼岳の山腹をまきながら丸大温泉へ。



朝日岳のやせ尾根・鎖場



三本槍岳の名前にあこがれて出かけた茶臼岳から朝日岳・三本槍岳への縦走であったが予想したほどの人の列もなく 静かな稜線の展望を楽しめました。

霧と強風の名所として名高い 稜線も静かで楽勝。

南に茶臼岳 北に朝日岳の大きな山体にはさまれて、時代 劇のシーンをみるかのような豆粒のような人の行列が続く山の峠道も印象的。

古くからある黒磯から峰越えに奥会津へ至る峠道 その中心部 那須の峰々を乗越す位置の峰の茶

屋跡。昔は多くの人や物資が行き交いこの峠にいたって ほとと一服したに違いない。

茶臼岳へのロープウェイが開通した今 多くの登山客・観光客が行き交う峠道として復活し今また賑わいを見せている。この峠道を約1時間下って茶臼岳登山口駅へ。

山行の終わりは湯湯治場の雰囲気を残す那須湯本温泉「鹿野湯」で汗を流す。湯温 45 度から二度毎に区切られた木の湯船がならぶ熱い熱い乳白色の温泉。

山の帰りにはもう少し暑いほうがベター。でも気分爽快で帰りました。

三本槍岳への日帰りは無理かと心配しましたが、朝早く出れば、秋でも楽勝のようです。

今度は秋もみじのシーズンにゆっくりと峠道を登ってランプの三斗温泉小屋に泊まって帰りは北温泉の自然の中の大きな露天風呂へと思っています。

2001.7.15.

那須湯本温泉につかりながら